

豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員アンケート結果（マトリックス表）

| | Q1. 豊島区のCSをどういう形にしていきたいか | Q2. 期待される効果、メリット。 | Q3. 課題 | Q4. 地域対策委員会とCS | Q5. その他意見 |
|--------------|---|---|---|--|--|
| 1. CSの目指すべき姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学校運営連絡協議会は学校が中心だったが、CSは地域と学校が対等 | | <ul style="list-style-type: none"> ・学校は子供たちのためだけではなく、地域の人達が自分を向上させるために活用できることをアピールしなければならない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校が持つ役割を学校・地域の安心安全、生涯学習センター、生きがいづくりの場として地域に愛される施設としてほしい ・コーディネーターの発掘や学校地域の連携を一層高めること、交流できる場を設けることなど、CSをうまく活用して意見交換ができるようにしなければならない | <ul style="list-style-type: none"> ・5年先、10年先を見据えた学校と地域の関係性及び本区の教育のバリューを構築していくことがコミュニティ・スクール制度を導入する意味であると考えます。 ・子どもたちが幸せな人生を歩んで行く上で、今学校で何を学ばなければならないのか。教師、子ども自身、親、地域、政治家、経営者、官僚が一緒に未来のために力を合わせて課題に取り組んでいかなければならない。 ・大きな核の中で、同じ目的を持った小さな核が活動すると良い。子どもたちは地域で育てるという大前提のもと、各部署、団体がそれぞれ対応し、問題等を共有しながら一つのコミュニティを進められれば良い。 ・中学生は、大人と出会う機会を重ね、沢山の体験をしながら、社会に貢献できる人として成長してもらいたい。 |
| 2. 地域と学校の関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域との連携を強化し、地域行事への児童の積極的な参加、学校行事への地域住民の参加を働きかけ関係を深めていく ・これからは学校から発信し、地域に関わることで、地域が学校を身近に感じるができるように ・中学校では地域との交流やイベント参加などは現状難しい | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとっては、校長や教頭よりもやはり教師の声かけが大事 ・特に部活の先生の役割が非常に重要 | <ul style="list-style-type: none"> ・先生方と地域団体との情報の共有 ・学校、PTA、地域の関係性を保つこと ・どの様にしたら生徒、保護者が参加し易くなるかが課題 | | <ul style="list-style-type: none"> ・学校が地域と触れ合いながら、コミュニティを作っていくことは、良いと思うが学校にとっては、新たな取り組みに時間が掛かり、かなりの負担になると思う。 |

| | Q1. 豊島区のCSをどういう形にしていきたいか | Q2. 期待される効果、メリット。 | Q3. 課題 | Q4. 地域対策委員会とCS | Q5. その他意見 |
|--------------------------|--------------------------|--|--|----------------|-----------|
| 3. 期待される効果 (1)学校 | | <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の支援(負担軽減、教育活動の増加) ・地域理解、区政理解、社会貢献意識の醸成、子どもへの理解の深まり、地域に根差した学校経営ができる。 ・地域の人材をゲストティーチャーとして迎え入れ、児童、生徒またその保護者とつながりコミュニケーション豊かな環境を作ること。 ・児童の健康面への助言を定期的に聞ける ・公立学校にしかできない、地域に根差した学校経営ができる。 ・部活動指導員としてメリットがあり、働き方改革にもつながる ・コロナ禍でも実現できる授業の選択が広がる ・学校の良さを顕在化させ、課題や問題がある場合は解決への支援の道を開き、区全体として教育の質を良質かつ持続可能とすることができる | <ul style="list-style-type: none"> ・校外活動時の安全が確保できる。 | | |
| 3. 期待される効果 (2)地域 | | <ul style="list-style-type: none"> ・防災や地域活性化 ・学校教育活動の理解、子供の理解促進、交流機会の増加、地域行事の活性化 ・児童と地域住民がお互いの顔が分かる関係が築ける ・日常、学童、児童と触れ合う機会がない世代の人との交流が生まれる。 ・勉強だけでなく、野外活動やスポーツ体験など地域で一体となつてできれば、子どもたちは生まれ育った地域が本当の故郷となり、次代に繋げ、町の発展にもつながる ・将来の地域の担い手を育てることができる。 ・地域活性化が進み、人同士のあいさつ、会話を生み、地域に顔見知りが増える。 | | | |
| 3. 期待される効果 (3)子ども・保護者 | | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人とのかかわりや様々な体験活動等を通して、子どもの学びを深めることができる ・児童と地域住民がお互いの顔が分かる関係が築ける ・地域理解、地域愛、地域行事参画意識、地域貢献意識の向上、地域交流機会の定着、増加 ・ふるさとを作ることができる。 | | | |

| | Q1. 豊島区のCSをどういう形にしていきたいか | Q2. 期待される効果、メリット。 | Q3. 課題 | Q4. 地域対策委員会とCS | Q5. その他意見 |
|----------------------------------|---|--|--|----------------|--|
| 3. 期待される効果 (4) 人事 | | ・教職員の任用について必要な意見を具申することで学校の教育活動を一層充実させることができる。 | | | ・公募による教員は、豊島区のコミュニティスクール校での勤務に当たって、地域貢献に努めることを明確に謳っていくことが必要 |
| 4. 学校運営協議会の運営 (1) 組織体制 | ・学校運営連絡協議会の組織を生かしていく ・学校保健会の内容を加える | | ・実働部会が必要 ・組織が大きくなりすぎる可能性があり、運営が課題となる。 | | |
| 4. 学校運営協議会の運営 (2) 委員の選定 | ・児童に関わっている方を委員にすべき ・校長推薦と委員長推薦をバランスよく ・教員や児童も入れると良い | | ・地域で中核となる人材に声をかける。 ・協力して頂ける方を募集するなどの新たにメンバーを募る。 ・しがらみがある中で人選を行う難しさ | | |
| 4. 学校運営協議会の運営 (3) 熟議、PDCAサイクル | | ・児童の安全と教育のフォローのために、地域保護者を含め、「自分たちができる範囲」でお手伝いをするために何が必要かを議論するのが最も大事 ・地域の人材を大いに活用して、それぞれの課題を明確にし、誰がその課題に関わって、どう解決に結びつけるか決める ・学校、子ども、保護者、地域、行政が役割を明確にし、学運協から発信することで、協働体制が強固になり、経営方針の実現ができる。 ・年間行事や児童の様子プリントは事前に配り、当日はメンバーがテーマごとに議論をし、問題提起しながら解決方法まで話し合いをするのがベスト ・保護者、地域の方も協力する形で解決方法まで提案をし、次回に取組の検証ができれば、徐々にできること、できないことが整理され、毎年の議論が簡潔になっていくのではないかと。 ・会議は問題提起まではよく出るが、解決方法は学校側に丸投げや要望で終わり、検証もされていない | ・学校の応援として、それぞれが何をどれだけやるのか、安全に効率的にどう順序を進めていくか決める必要。 | | ・なるべく児童目線での議論が行えればと思う。時代も生活環境や家庭環境、また授業もICT環境の導入など、変わってきている。それらに対応していけるような議論をすることが重要 |

| | Q1. 豊島区のCSをどういう形にしていきたいか | Q2. 期待される効果、メリット。 | Q3. 課題 | Q4. 地域対策委員会とCS | Q5. その他意見 |
|--------------------------------|--|-------------------|---|--|--|
| 4. 学校運営協議会の運営 (4)その他 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・議事録やCS便りの作成等の役割分担 ・個人情報等の管理が課題 ・予算や備品、活動場所の確保が課題 ・予算は寄付やクラウドファンディングなどを活用する方法も検討する。 ・活動の周知方法 ・PTAの役割分担 | | |
| 5. 地域学校協働活動 (学校支援・地域貢献) | <ul style="list-style-type: none"> ・人材や地域資源を発掘し、協力員を増やす | | <ul style="list-style-type: none"> ・多数の主体(団体)が多様な活動を実施しており、それらの整理が必要。 ・コーディネーターの人材育成が課題 ・コーディネーターの負担軽減 ・校外活動時の安全確保 ・コーディネーターから地域にアナウンスする手段がなく、学校が募集している。 ・個人情報の管理のルール | | <ul style="list-style-type: none"> ・一定の学校教育支援の財政的な付与が必要 ・コミュニティ・スクールの取り組みとして、中学校で放課後カフェの時間を作り、日頃話せない生徒と話すチャンスを作れたら良い |
| 6. インターナショナルセーフスクール(ISS)とCSの関係 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ISSとCSをどう整合させるのか、その考え方についても検討していく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一本化することへの期待は大きい。 ・重複する議題も多く、分ける必要がない ・一本化することで運営しやすくなる ・各種委員会のメンバーがほとんど同じなので、時間がかからない。 ・セーフ・コミュニティの一つとして、豊島区型のCSを推進すべきである。 ・地域対策委員会の委員から意見を聞き、統合を検討 ・豊島区の強みとしての地域の力をCSに統合 ・CSの活動も子どもたちの委員会活動を通して行い、かつその活動がISSでも認められるなら良い ・内容が異なるため会議を一つにして減らすことは難しい。 ・地域対策委員会は幅広い関係者が参加する貴重なメンバーである。この幅広い地域連携を無くすことは難しい。 ・過剰な負担を強いたり、プラットフォーム化してしまうと、学校がかえって機能不全に陥る危険性がある | |